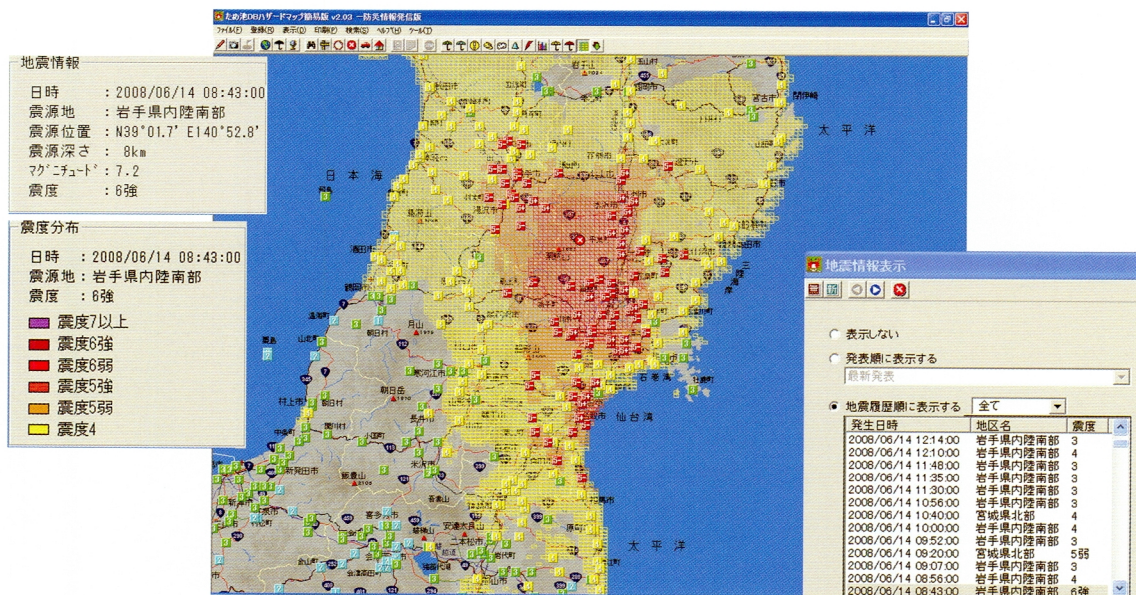


# 「平成 20 年(2008 年) 岩手・宮城内陸地震」速報

平成 20 年 6 月 14 日に岩手県内陸南部を震源として「平成 20 年(2008 年) 岩手・宮城内陸地震」が発生した。8 時 43 分頃に発生した本震はマグニチュード 7.2 と推定され、震源深さが 8 km と浅く、岩手県奥州市、宮城県栗原市で震度 6 強を記録した。さらに、強い余震が続いた。農研機構農村工学研究所では東北農政局などからの要請によって職員を派遣し、農業用ダムの安全性確認、ダム貯水池への土砂流入の状況、ため池の被災状況等に関する調査を実施した。

(写真提供：農研機構農村工学研究所，(5)を除く。なお，(3)(6)(7)は国土交通省のヘリコプターに同乗した同研究所職員が撮影した。)



(1) 農村工学研究所ため池データベースによる気象庁計測震度と推計震度の分布図



(2) 荒砥沢ダム（宮城県栗原市）から見た左岸上流の地すべり



(3) 上空から見た左岸上流の地すべり—向かって左側の北西より南東方向に移動し、末端は対岸に乗り上げたと思われる—



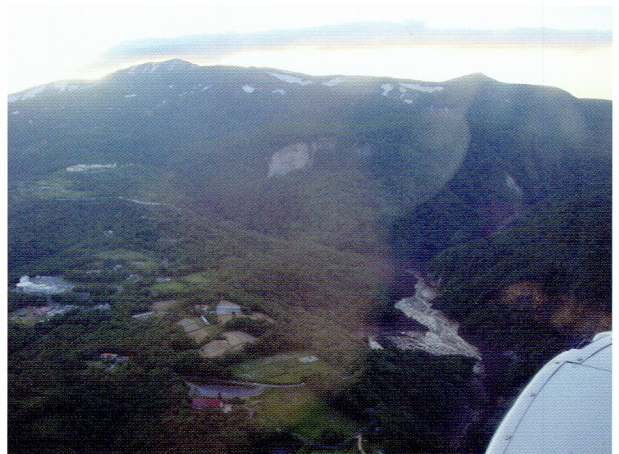
(4)小田ダム（宮城県栗原市）の天端ブロックに生じた変状



(5)野中ため池（岩手県奥州市）—地震動で天端部にクラックが生じ、上流保護ブロックもずり落ちている—（写真提供：胆沢平野土地改良区）



(6)上空から見た宮城県栗原市耕英南地区（北西から南東方向を望む）—沢沿いの崩壊が著しい—



(7)上空から見た耕英東地区（南東から北西方向を望む）画面右は駒ノ湯



(8)宮城県栗原市築館地区で発生した地すべり—崩れ落ちた土塊の形状がシートに残っている—